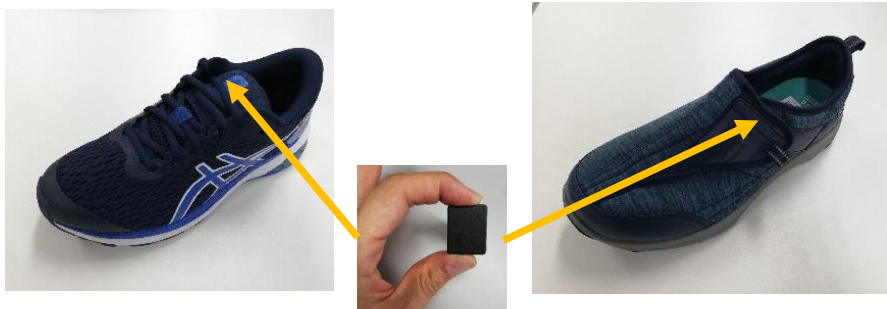


三木緑が丘地区におけるDX実証結果

株式会社アシックス
事業推進統括部

坂本 賢志

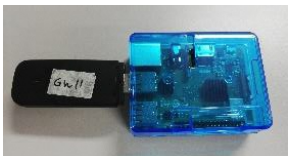


実証期間：2021/11/1 - 2022/2/18

実証参加者74名（三木市からの依頼による参加者42名）

※74名には三木市在中のアシックス社員やビーンズドーム利用者を含む。

- ◆ センサID
- ◆ 活動量



- ◆ エリアデータ
- ◆ 時刻情報

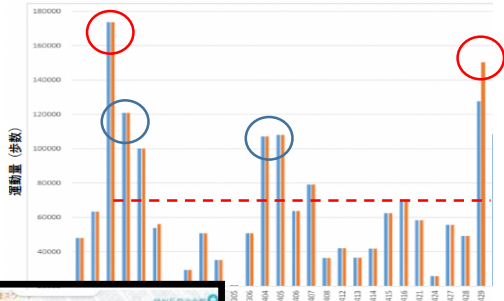


結果表示

『TUNEGRID for City』

「その日」のデータから分かる事

- ◆ 適正な運動の情報提供
- ◆ 運動促進



- ◆ 居場所履歴（見守り）



- ◆ 災害時避難状況の把握

【①健康・運動】

- ◆ 活動量データ
- ◆ 時刻情報



【②見守り】

- ◆ エリアデータ
- ◆ 時刻情報



【③自治体運営】

長期の計測結果から分かる事

- ◆ 継続的運動の実施
- ◆ 運動イベント等の実施



- ◆ 活動低下・引きこもりの把握
- ◆ 濃厚接触者追跡

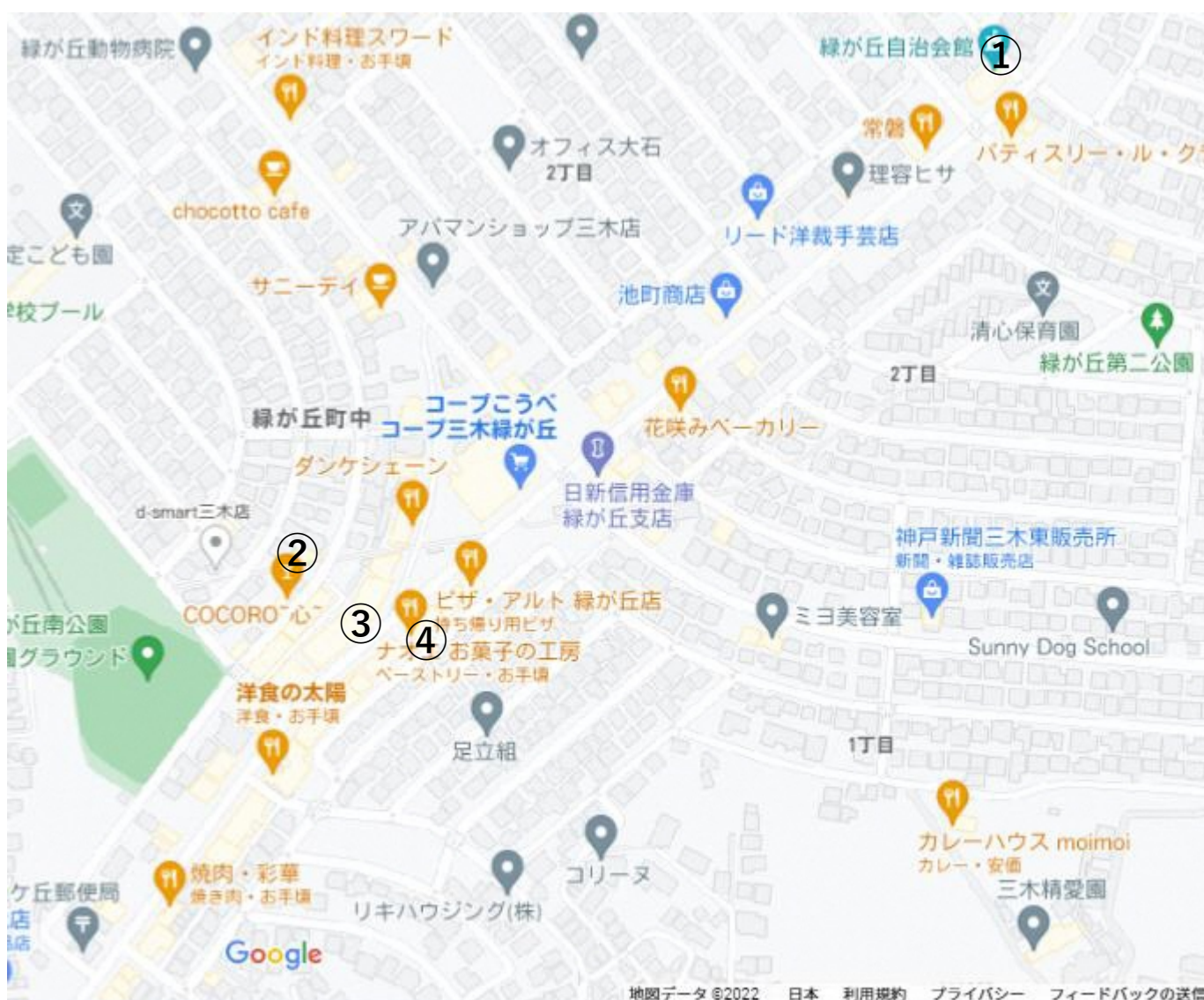


- ◆ 属性毎・時刻毎の人流把握
- ◆ 交通事故リスクマップ作成

「人流データ + 歩数データ」より得られる様々な情報

下記5箇所に設置した受信機と、市民に装着いただいたセンサシューズによって得られた様々な情報を纏めた。

既存のソリューションでも「人流データ」を計測する事は可能であったが、アシックスのソリューションは、人流データに歩数データが同期されて発信されるため、あらたなサービス活用が見込める。



⑤：ビーンストーム入口

①～⑤ 本実証における受信機設置場所

結果① 市民向け報告（第1～4回） 運動量計測結果

高齢者を対象に合計歩数と、運動に纏わる知見を報告した。

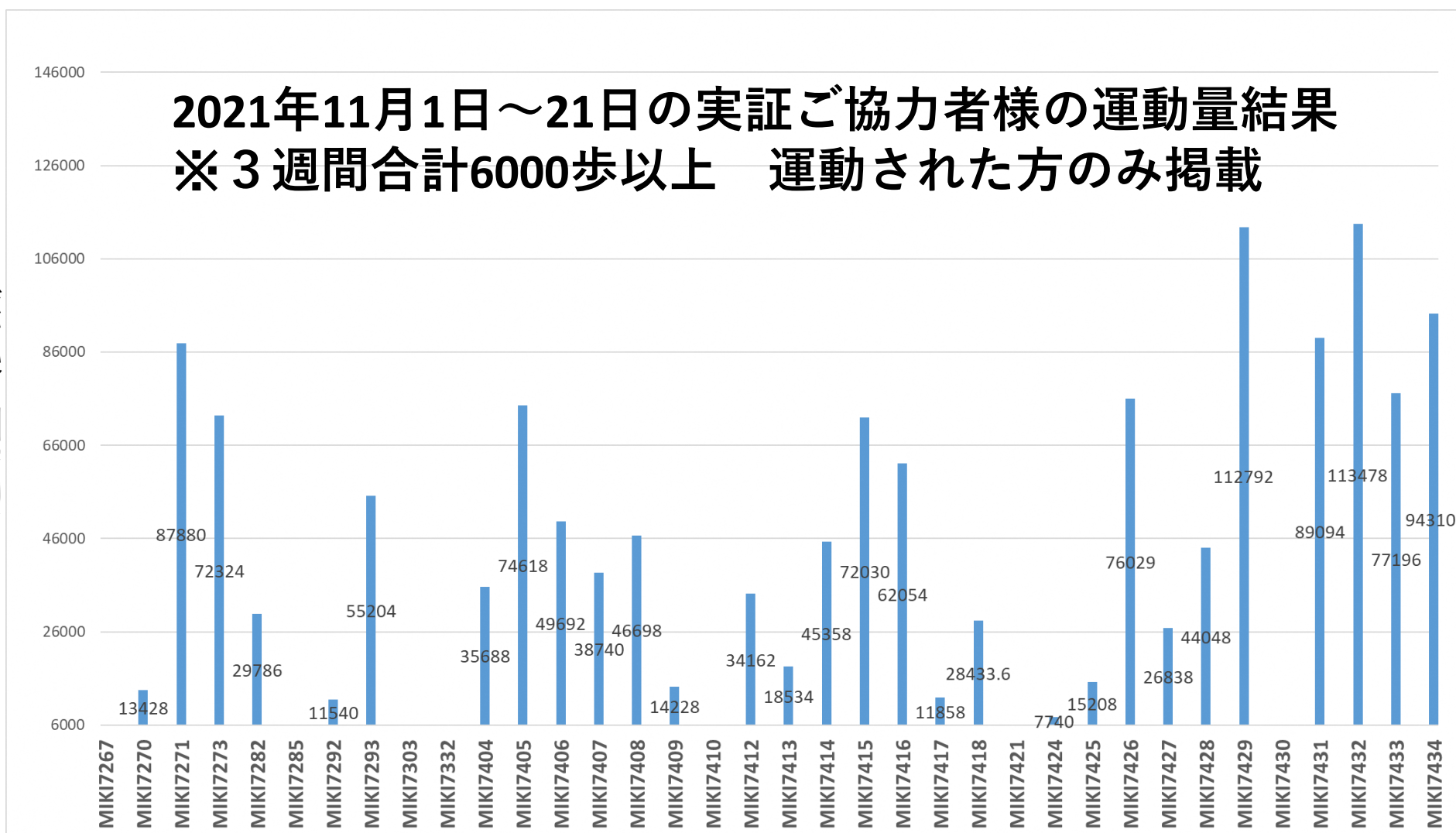
報告手段として、緑が丘自治会館玄関前への掲示を行った。



三木緑が丘地区でのDX実証 結果報告①

2021年11月1日～21日の実証ご協力者様の運動量結果
※ 3週間合計6000歩以上 運動された方のみ掲載

運動量 (歩数)



① 第一回 3週間スマートウォーキング結果 (60歳以上対象)

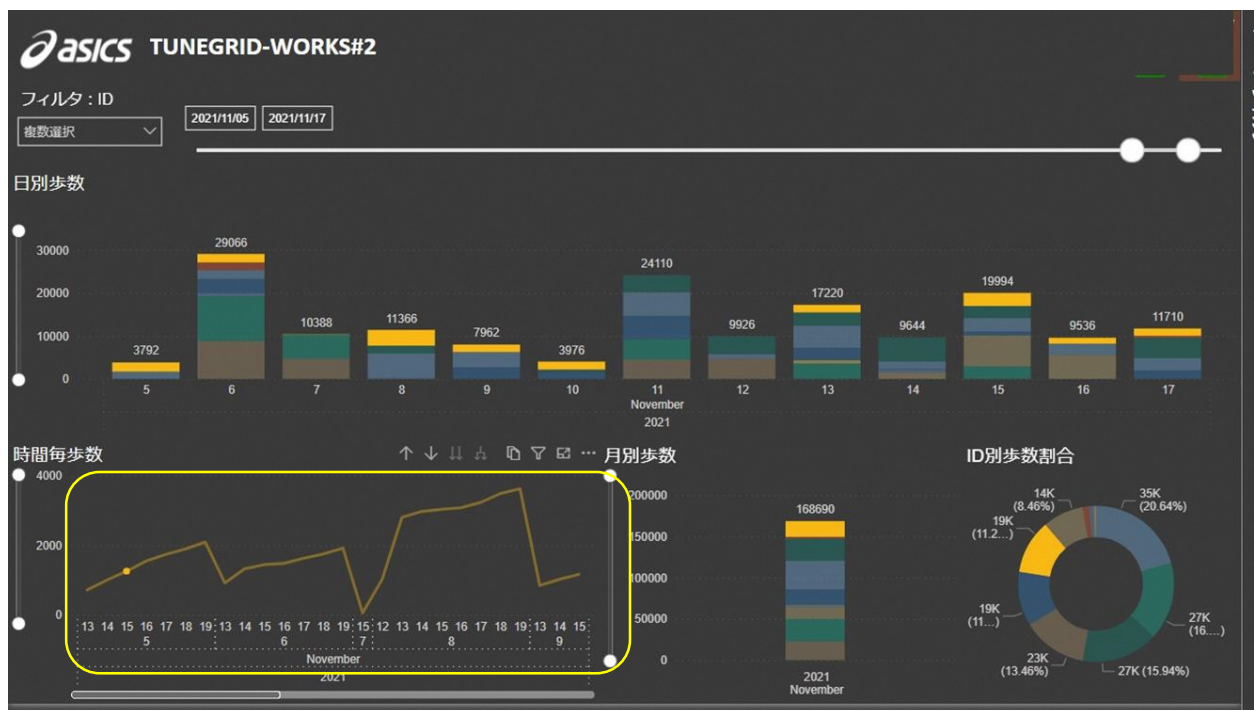
1位：センサNo.7432の方

2位：センサNo.7429の方

お二人には後日 プレゼントを差し上げます。

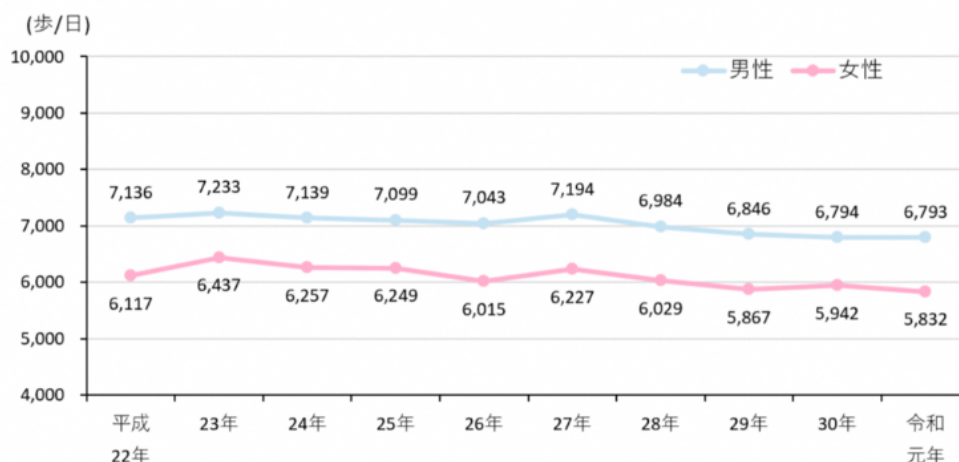
- ② 説明会でご説明しました通り、スマートウォーキングは、高齢者の方々への運動関心喚起が目的ですので、例えば部活生の方（部活で運動量をカウントすると、それだけで毎日2万歩は増える）や仕事で市外へ移動される方など、「運動促進では無い目的での運動量増加」がある方を対象から外させていただくことで、運動関心喚起効果を確認させていただいております。

ただ、今回のTOP 4は、65歳以上の方々で、今回の取組によって、高齢者の方々が積極的に運動される切っ掛けになったと思われます。



これは、ある方の運動分析結果一例です（黄色表示：高齢者の方）。一日当たりの運動量は3000歩以下（全国平均は男性が6,793歩、女性が5,832歩）ですが、毎日定期的にウォーキングし、運動を日常化することで、本実証でも上位の運動量を示します。

1日当たりの平均歩数の年次推移（20歳以上）



<厚生労働省「国民健康・栄養調査報告」/令和元年>

③ ご自身が実施された運動量より、結果が「少ない」とお感じの方も居られると思いますが、理由は下記になります。

- ・ 11月に入り、日の出時刻は遅く、日の入時刻が早まった。暗い環境でのウォーキングは推奨しかねますので、19:00以降のデータはカウント対象外としています。（説明会では9:00-17:00とお話ししましたが、その際、時刻の改善を求める声が多く、今回は8:00-19:00としました）
- ・ 受信機でたまたま、受信し損ねる可能性もゼロでは御座いません。それらの実験実証も目的ですのでご容赦ください。

- ・ご自宅～実証エリアまで「遠い」方も居られるかと思えます。ご自宅～実証エリアまでの運動量はカウントされますが、説明会でご説明しましたように、「実証エリア～ご自宅（帰路）」の運動量はカウントされません。

あくまで「経験的」にですが、グラフでお示しした運動量の2～3割増の運動は実施されていると思われれます。しかしながら、一日1万歩にはまだまだとも言えます。

【ご確認のお願い】

運動量結果グラフには「11/1～11/21までに 6000歩以上検知されたセンサNo.を記載しております。「絶対6000歩以上歩いたのに、私の番号が無い」という方は、緑が丘公民館1階に設置された「スマートウォーキングポスト」にご意見を投函してください。得に下記番号の方は運動量結果グラフを御確認ください。

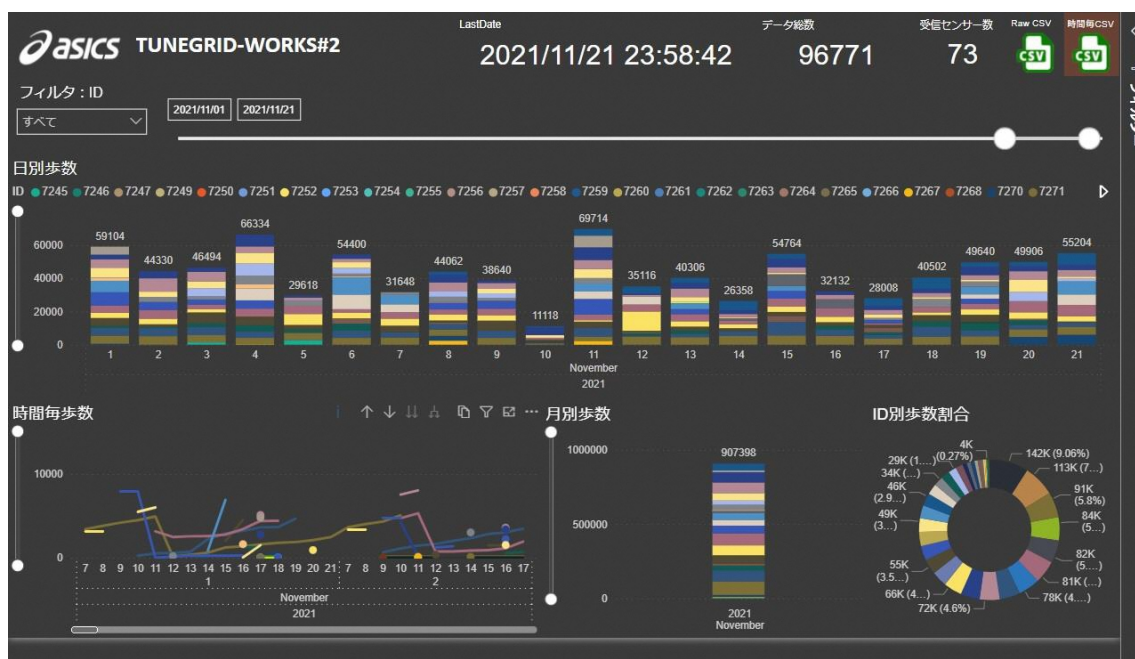
センサ番号：7411、7413、7430

緑が丘地区での協力者の生活特徴

協力者全員のデータを分析すると以下のような事が読み取れます。

- ・この地区では日曜日の運動量（徒歩での商店街来訪）が少ない。
- ・この地区では月曜日に運動量が多い＝実証エリアを徒歩移動する人が多い。
- ・朝と夕方に実証エリアを徒歩移動する人が多い。

こういったデータを蓄積する事で、この地区の防災対策のアップデートや事故・犯罪などに合わないなど、暮らしやすい街づくりの基礎データとなると考えます。引き続き実証へのご協力を宜しく申し上げます。



【ミニ情報】



今、防災公園の紅葉が見頃だそうです。地元の魅力再発見！、そしてスマートウォーキングの運動量を増やす目的で、ウォーキングトリップに防災公園を訪れては如何でしょうか？

緑が丘地区に設置している受信機と同じものを、ビーンズドーム受付付近に設置しました。防災公園を訪れる際、そして緑が丘地区に戻られる際の計2回、ビーンズドームにお立ちより頂ければ、運動量がスマートウォーキング実施に加算されます。トイレや自動販売機、ベンチもあり、ウォーキングトリップの拠点としてビーンズドームをご活用いただけます。（ビーンズドーム休館日にご注意ください）
ただし、日没時刻も早まっていますので、ビーンズドーム受付付近の受信機は10:00～17:00のみ、実証協力者のセンサ信号を受信します。

公園でバドミントンを楽しんでみては如何でしょうか？

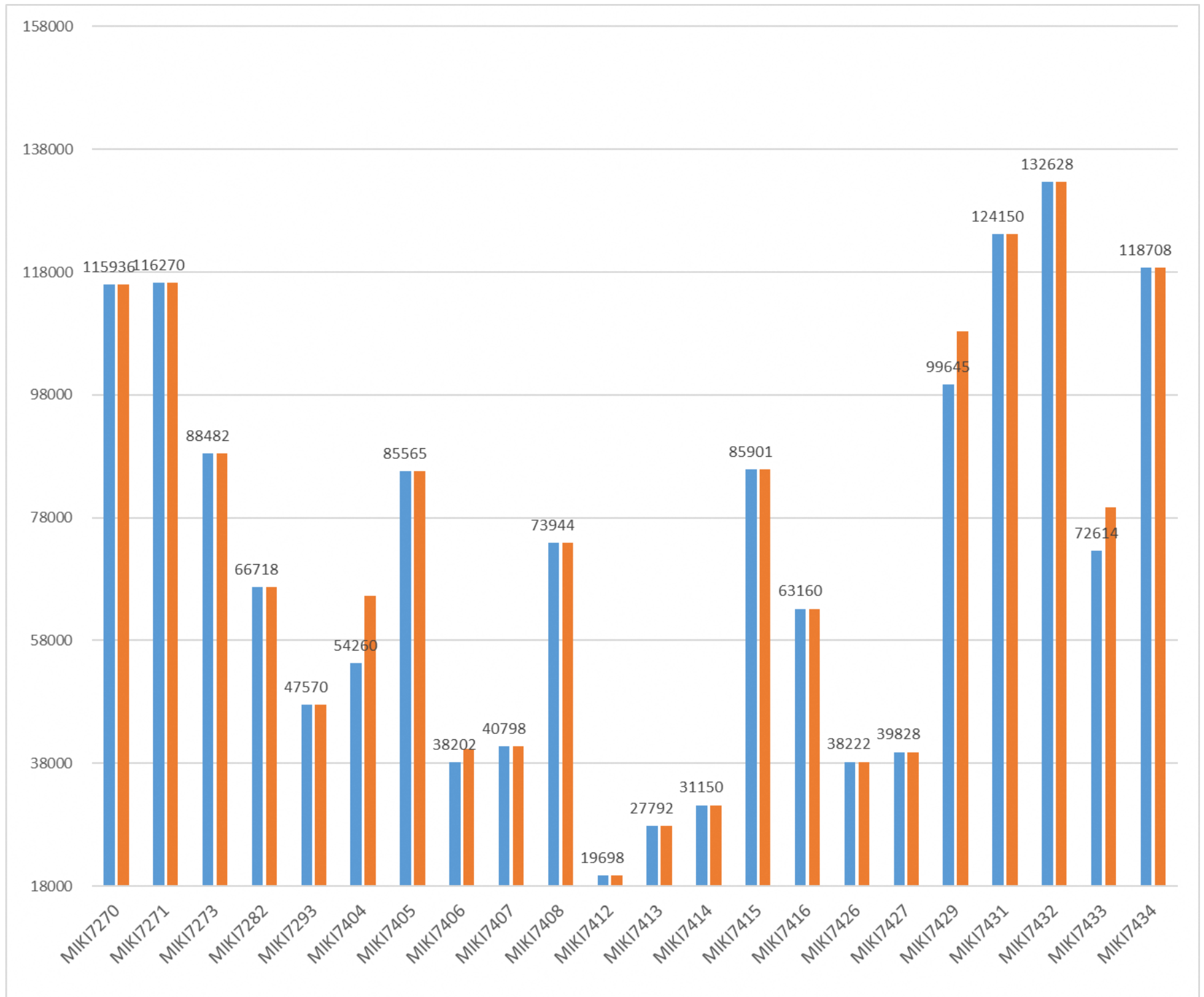
バドミントンは前後左右にステップする事で、日常生活では使わない筋肉を使います。また低い位置のシャトルを打ち返す際は膝を深く曲げ、高い位置のシャトルは背筋を伸ばして打ち返す動作をするので、楽しみながらストレッチ運動になります。



三木緑が丘地区でのDX実証 結果報告②

2021年11月22日～12月12日の実証ご協力者様の運動量結果
※ 3週間合計19000歩以上 運動された方のみ掲載

運動量 (歩数)



① 第二回 3週間スマートウォーキング結果 (60歳以上対象)

1位：センサNo.7432の方

2位：センサNo.7431の方

お二人には後日 プレゼントを差し上げます。

②本実証には小学生～高齢者の方まで ご協力いただいておりますが
説明会でご説明した通り、スマートウォーキング結果は60歳以上を
対象にランキング（TOP1 TOP2）を選ばせていただいております。

③ 今回の結果表示は前回と比べて2つの要素を変更しました

A) ■は19時までの運動量（ウォーキング対象時刻）

■は23時までの運動を示しています。

本実証では夜間のウォーキングを推奨していないため、19時以降
のデータはランキングの歩数カウントに含んでおりませんが、

「自身がどのくらい運動しているのか それを知りたい」と言う
お声をいただいたので 23時までの運動量も併記しました。

結果、殆どの方が 夜間のウォーキングを避けて運動されている
事が分かりました。

B) 運動量を19000万歩以上としました。

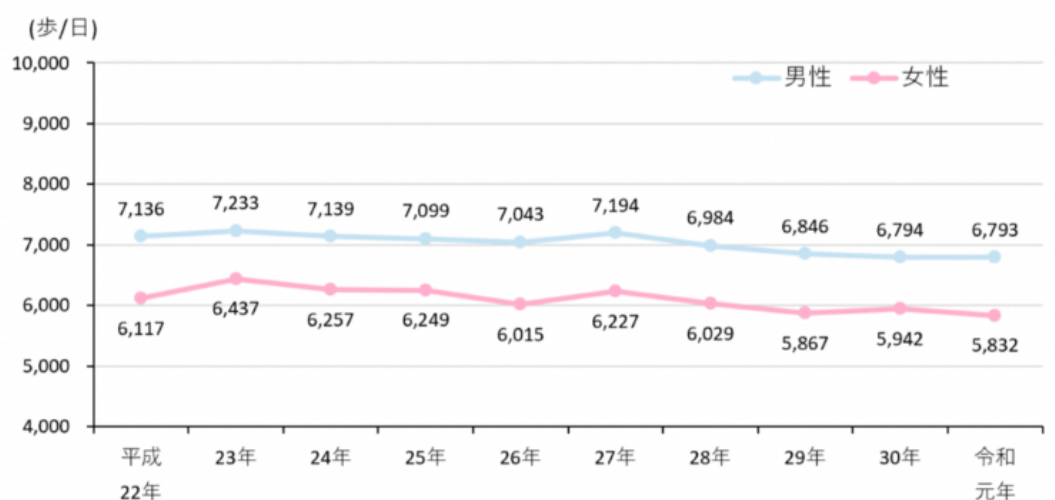
第1回の報告と比較して、この実証にて多くの方の運動量が飛躍的に
増加しました。そのため、表示対象を絞る事になりました。

表示に至らなかった運動量の方、次回は恐らく2万歩以上が表示対象
となるため、是非とも

頑張ってください。

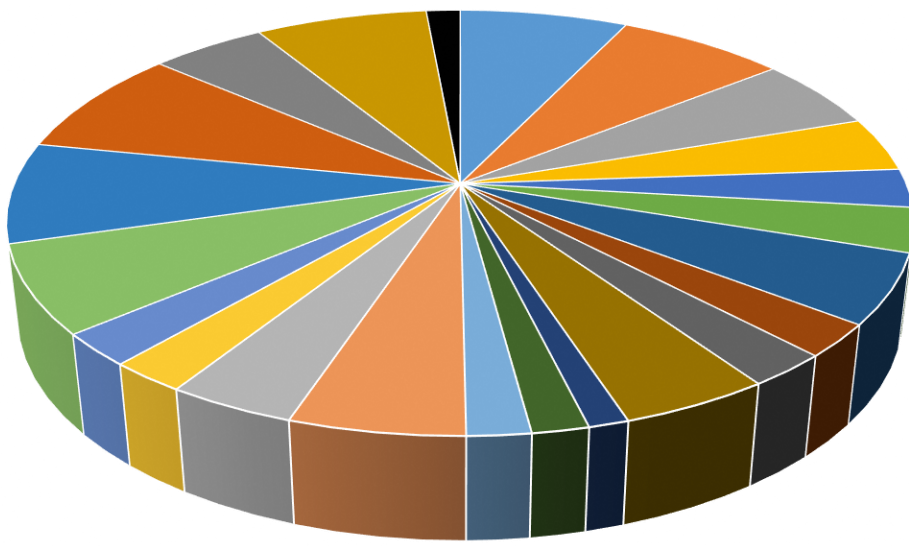
2万歩と言っても3週間
(21日) で考えれば、一日
1000歩以下なので十分な
運動量とは言えません。

1日当たりの平均歩数の年次推移（20歳以上）



<厚生労働省「国民健康・栄養調査報告」/令和元年>

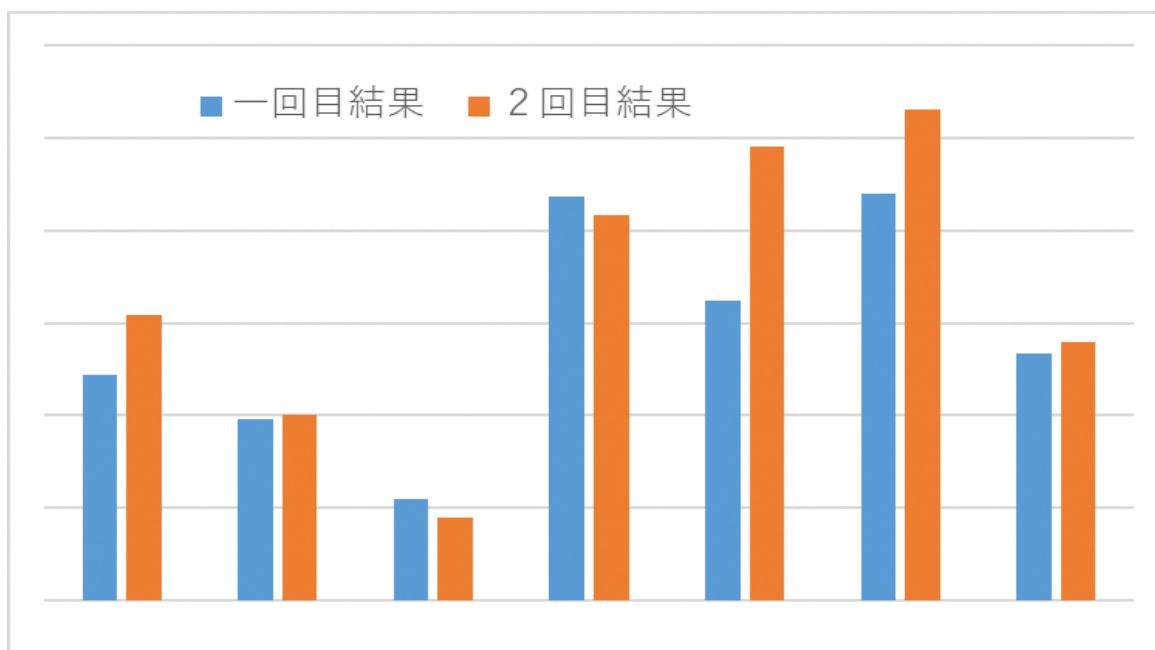
健康のため、街の活性化や賑わいのため、多くの方が活動的になること
は、緑が丘地区にとって良い事と感じます。



- MIKI7270 ■ MIKI7271 ■ MIKI7273 ■ MIKI7282 ■ MIKI7293 ■ MIKI7404
- MIKI7405 ■ MIKI7406 ■ MIKI7407 ■ MIKI7408 ■ MIKI7412 ■ MIKI7413
- MIKI7414 ■ MIKI7415 ■ MIKI7416 ■ MIKI7426 ■ MIKI7427 ■ MIKI7429
- MIKI7431 ■ MIKI7432 ■ MIKI7433 ■ MIKI7434 ■ その他

センサNo	%
MIKI7270	7.1
MIKI7271	7.2
MIKI7273	5.5
MIKI7282	4.1
MIKI7293	2.9
MIKI7404	3.3
MIKI7405	5.3
MIKI7406	2.5
MIKI7407	2.5
MIKI7408	4.6
MIKI7412	1.2
MIKI7413	1.7
MIKI7414	1.9
MIKI7415	5.3
MIKI7416	3.9
MIKI7426	2.4
MIKI7427	2.5
MIKI7429	6.7
MIKI7431	7.7
MIKI7432	8.2
MIKI7433	4.9
MIKI7434	7.3
その他	1.4

④ 黒い部分がその他（19000歩以下の方の群）です。一見してここに記載したセンサNoの方が、本実証で多くの運動を実施されています。



- ⑤ 第一回の結果報告同様、やはりほぼ毎日ウォーキングされるの方が、一週間のどこかでドカンと運動される方より、3週間の運動量が多い事が分かりました。毎日の運動習慣を身につけましょう。また、個人が特定されないよう、歩数は記載しませんが、活発に運動されている高齢者の方の多くが、第一回の結果報告より、運動量が増加している事が分かります。勿論皆さま ご都合が御有りと思います。無理のない範囲で運動を実施しましょう。
- ⑥ 受信機でたまたま、受信し損ねる可能性もゼロでは御座いません。それらの実験実証も目的ですのでご容赦ください。

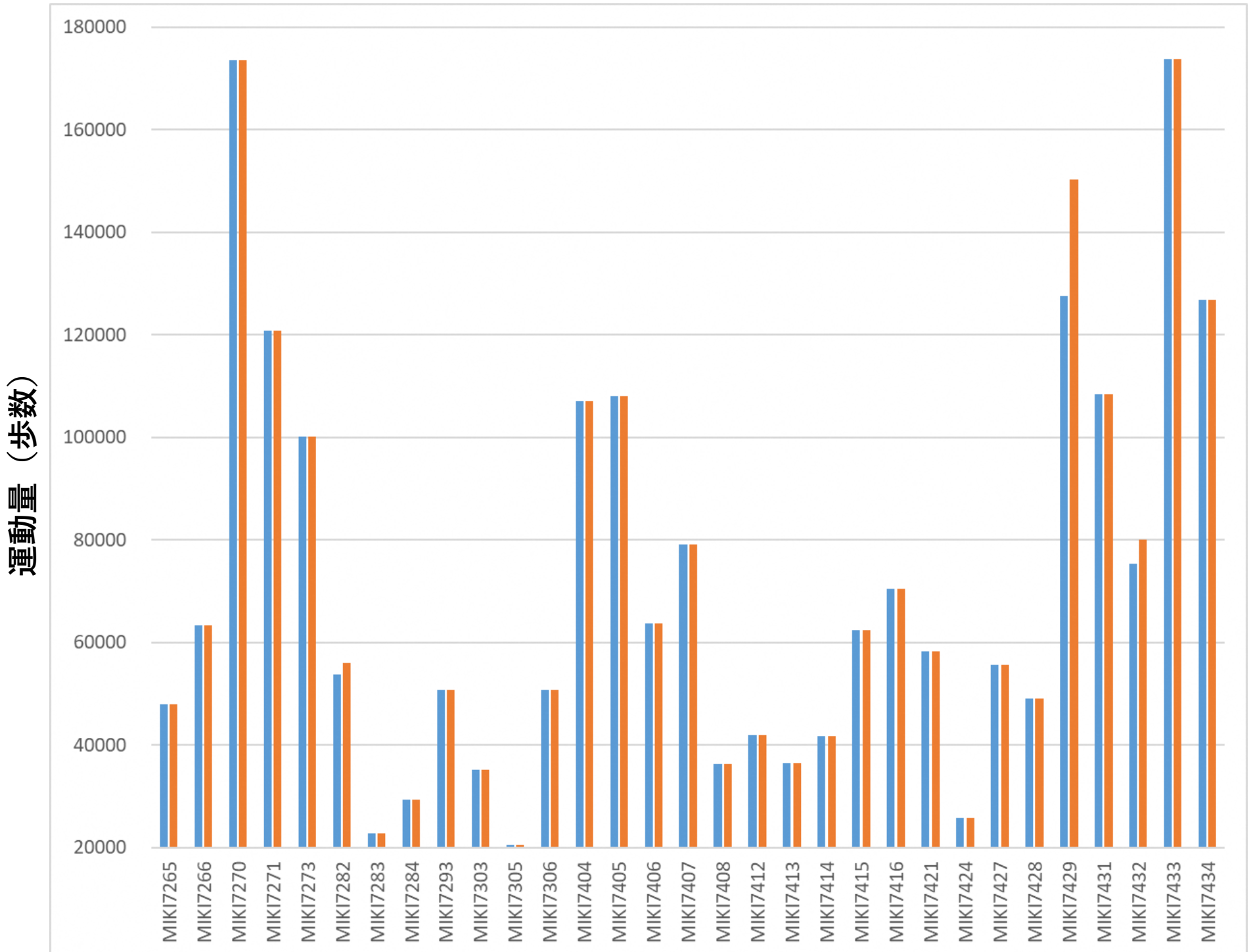
三木緑が丘地区でのDX実証 結果報告③

報告が遅くなり申し訳御座いません。

2021年12月13日～1月2日の実証ご協力者様の運動量結果

※3週間合計20000歩以上 運動された方のみ掲載

※詳細結果は 緑が丘自治会館 玄関に掲示しています。



① 第3回 3週間スマートウォーキング結果 (60歳以上対象)

1位：センサNo.7433の方

2位：センサNo.7270の方

お二人には後日 プレゼントを差し上げます

※センサ7429の方は夜に歩かれている歩数が スマートウォーキングに
カウントされませんが、素晴らしい運動量です。

②本実証には小学生～高齢者の方まで ご協力いただいておりますが
説明会でご説明した通り、スマートウォーキング結果は60歳以上を
対象にランキング（TOP1 TOP2）を選ばせていただいております。

③ ■は19時までの運動量（ウォーキング対象時刻）

■は23時までの運動を示しています。

本実証では夜間のウォーキングを推奨していないため、19時以降
のデータはランキングの歩数カウントに含んでおりませんが、

「自身がどのくらい運動しているのか それを知りたい」と言う
お声をいただいたので 23時までの運動量も併記しました。

結果、殆どの方が 夜間のウォーキングを避けて運動されている事
が分かりました。

【ミニ情報】

- ①ウォーキングとランニングの違いは何でしょうか？（速度ではありません）
- ②個人競技でもっとも試合時間の長いテニス、足への負担は相当なものです。
- ③クッション性よりも、「より強力な力を地面に伝える」事で記録が出せる
陸上競技。

靴のデザインは、対象とする運動・動作を、より効率的に行う事を目的として、
様々な機能を搭載しています。

「何故 こんなに多くの歩数、歩けるようになったのか？」 「速く走れるようにな
った秘密が分かるかも？」 「フルパフォーマンスを長く維持できるには、どんな
靴を選んだら良いのか？」などの様々な疑問の答えは目的の動作と靴の機能を知れ
ば、分かることでしょう。

【ウォーキングシューズの特徴】

つまづき対策
のプロテクター

安定感を重視した
接地面積の確保



足沿いの良さを
実現する屈曲溝

安定感を重視した
Upper

履きやすい構造

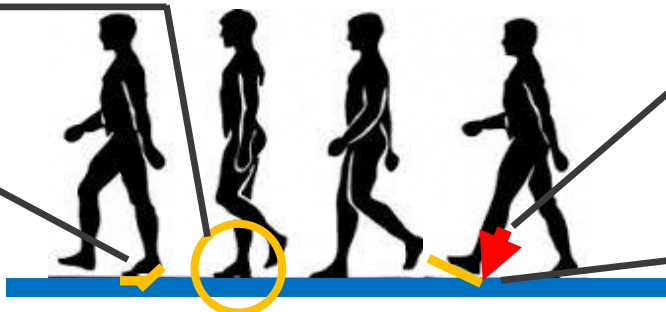


つまづきづらい
つま先上がり構造

かかと上がり
角度が大きい
= 接地面積の確保

接地安定感 必要

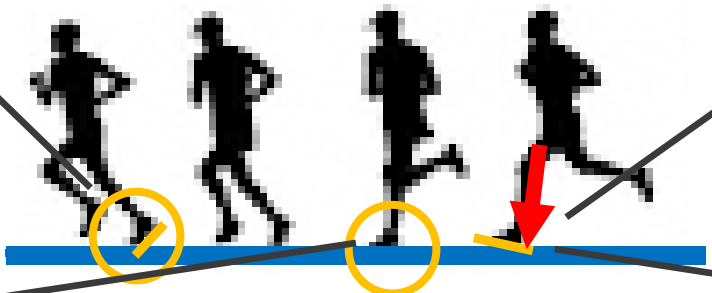
体を前に「運ぶ」
= 足沿いの良さが重要



着地加重
= 体重の1.5倍程度

かかと接地の
角度が大きい

前に「蹴り出す」
= 曲がりすぎない
ことが重要

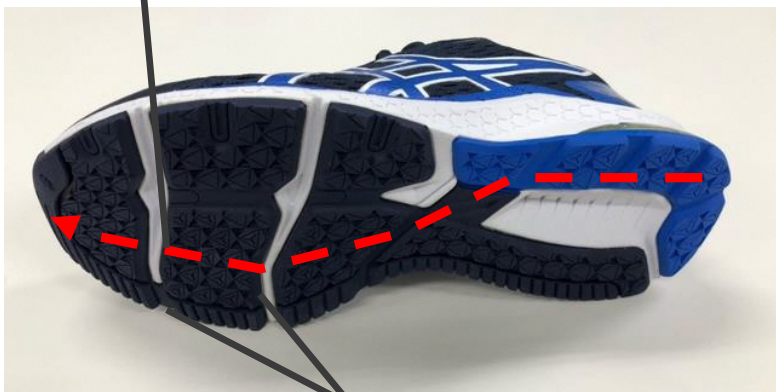


着地加重
= 体重の3倍程度

かかと接地の
角度が小さい

踏み込み力の移動
(外足～内足へ)

ランニングにおける「踏み込み力」
の移動に併せた鞋底構造



蹴り出し易さのための
「曲がりすぎない」構造

軽量化と通気性を
追求したUpper

かかと上がり
角度が小さい
= 接地面積の確保



高いクッション性
= GELの採用

【ランニングシューズの特徴】

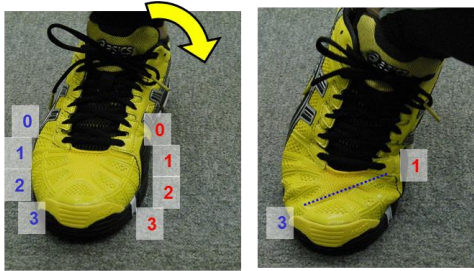
【テニスシューズの特徴】



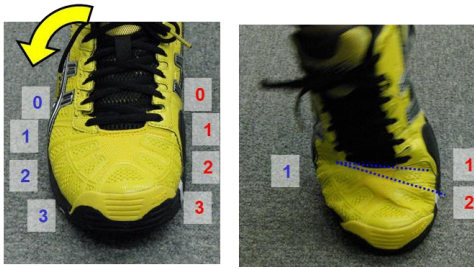
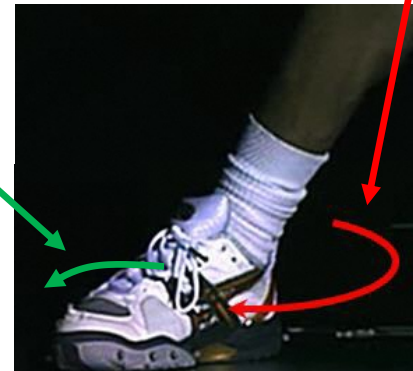
激しい動作でも
安定感のある
樹脂製Upper



強いストロークを打つ
ためのカウンター構造



サイドダッシュ～
ブレーキで力の
ロスを抑える構造



テニス独特のシューズのねじれ
にもフィット感をキープする構造



スムーズな回転
動作をサポート



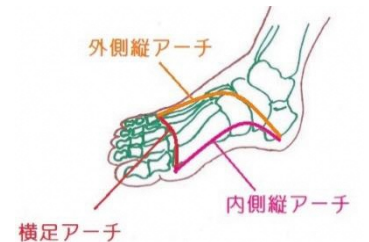
【陸上スパイクの特徴】

必要な部分だけ補強
した軽量Upper



数百キロの“力”を
受け止める靴底

※幅跳びTOP選手のジ
ャンプでは約900kgfの力
が片足に掛かることも

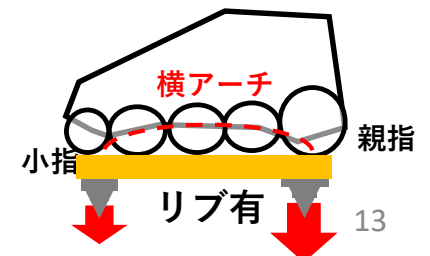
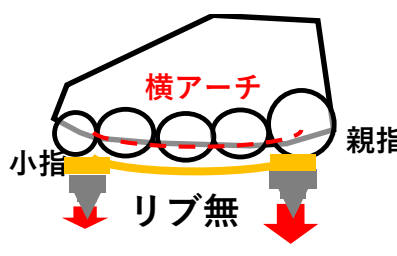


足部構造に合わせてリブを配置

※足には 負担を減らすため
アーチ構造がある

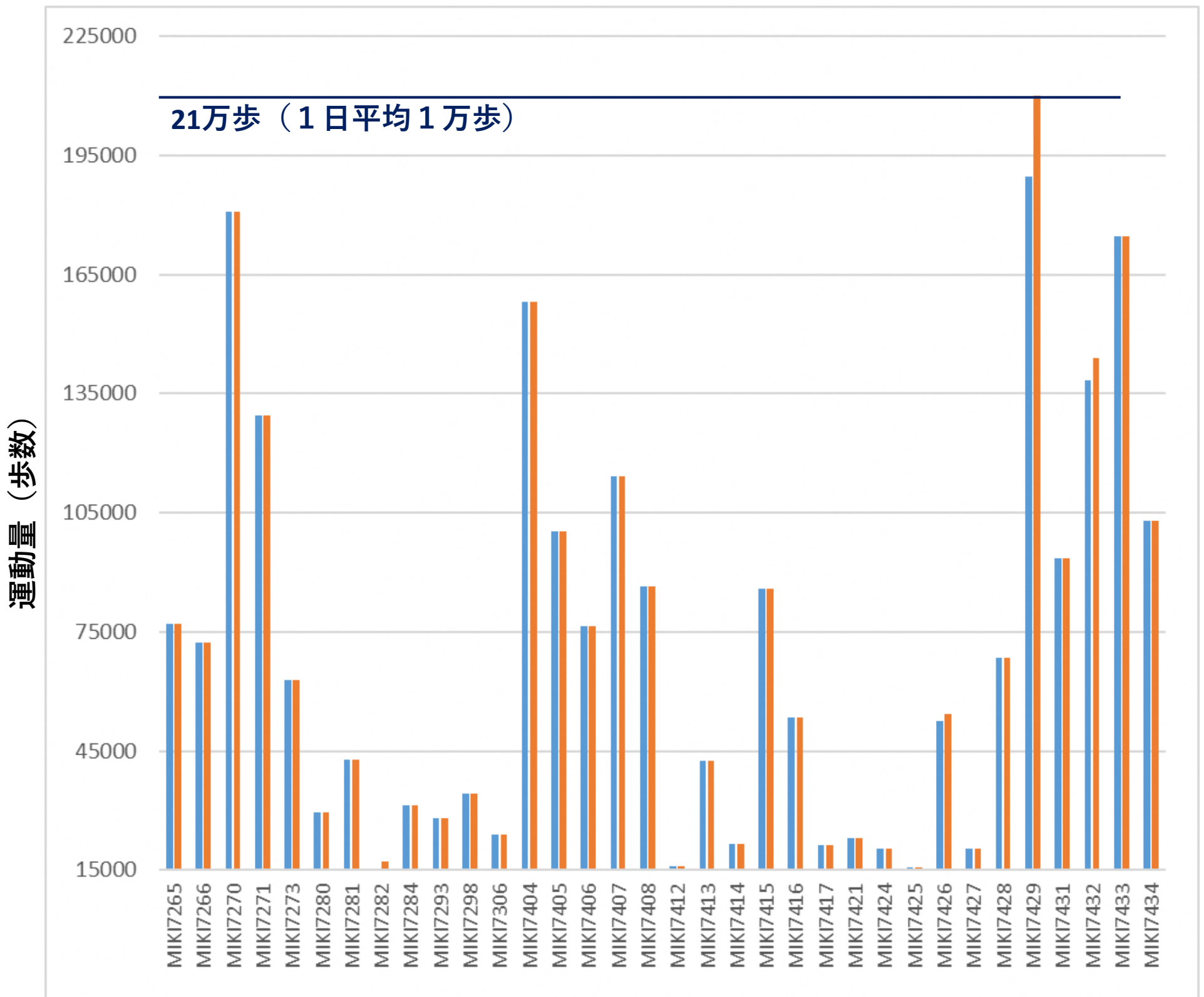


同じサイズの靴でも陸上スパイクは
こんなに小さい。実はウォーキング靴
が最も大きい



リブが無いとアーチがつぶれる

三木緑が丘地区でのDX実証 結果報告（最終回）



※ 3週間で16000歩以上のデータが測定された方のみ記載しています。

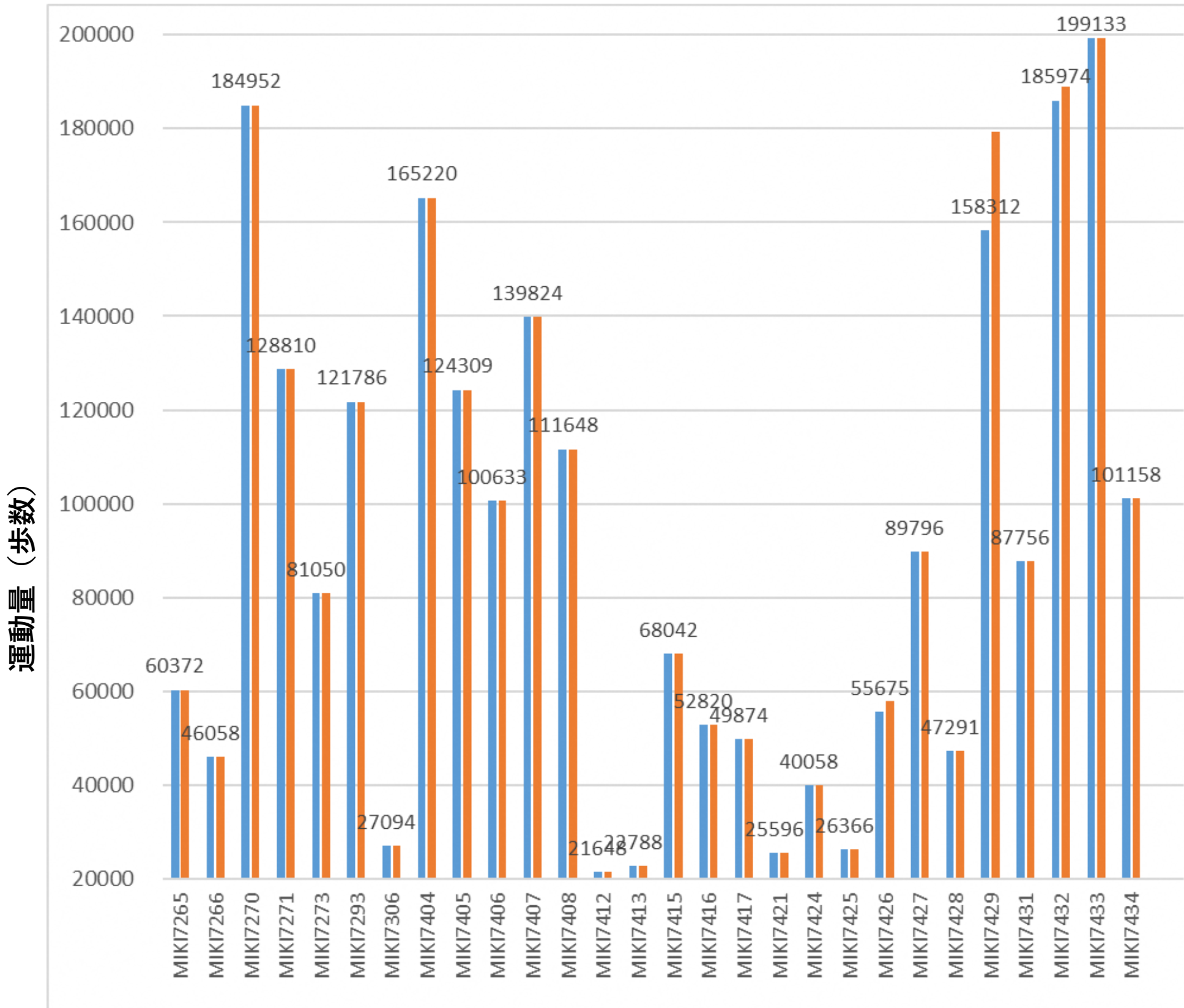
① 第4回【1 / 3 - 1 / 2 3】3週間スマートウォーキング結果（60歳以上対象）

1位：センサNo.7429の方

2位：センサNo.7270の方

お二人には後日 プレゼントを差し上げます

- ② 夜の受信データも含んでですが、ついに3週間（21日間）で21万歩（1日平均1万歩 ※30代でも中々できない歩数）を上回る方が出ました。素晴らしい事ですが、逆に「運動のやりすぎ」にならないよう、ご注意ください。



※ 3週間で20000歩以上のデータが測定された方のみ記載しています。

① **最終回【1 / 24 - 2 / 13】3週間スマートウォーキング結果 (60歳以上対象)**

1位：センサNo.7433の方

2位：センサNo.7432の方 お二人には後日 プレゼントを差し上げます

② ■は19時までの運動量 (ウォーキング対象時刻)

■は23時までの運動を示しています。

最終回の報告では スマートウォーキング 2回分を一気にお知らせしました。
プレゼントの送付までしばらくお待ちください。

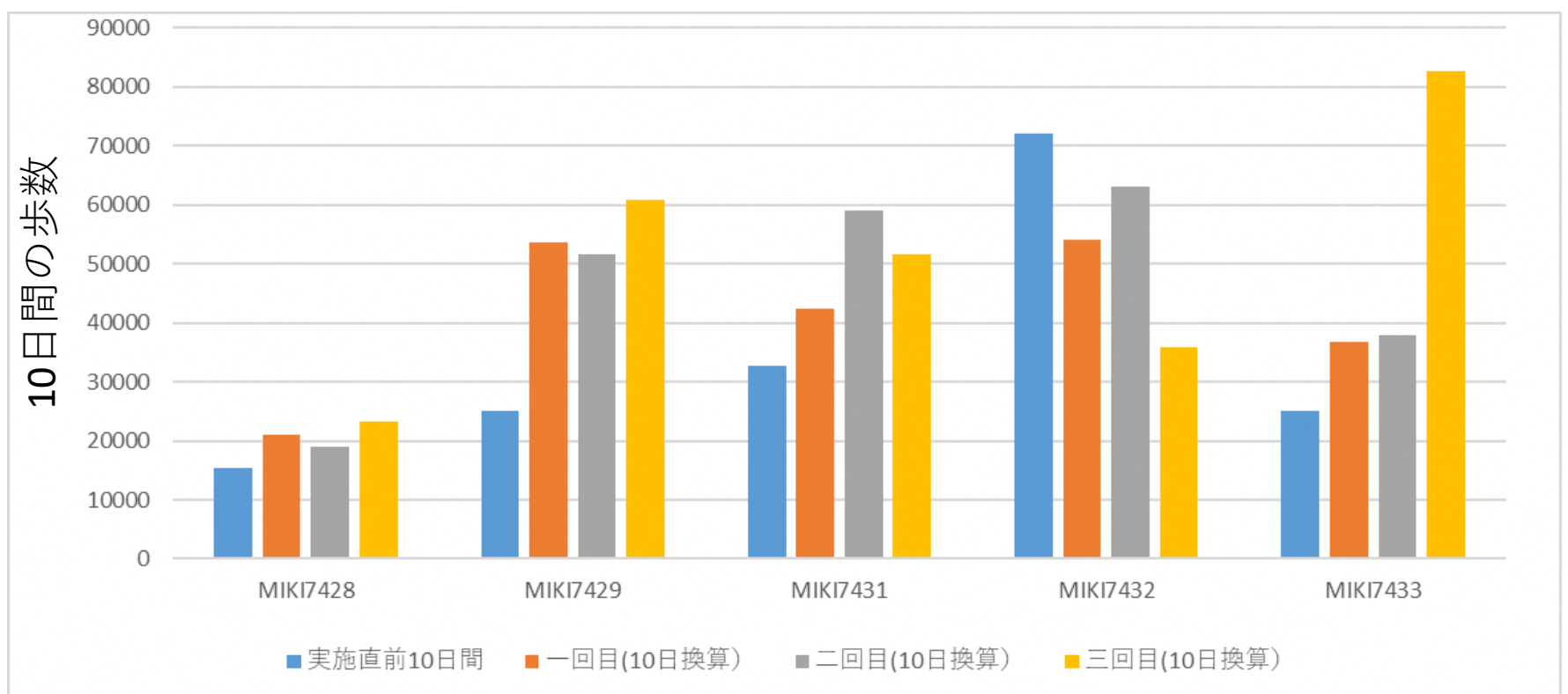
以降は共同でDX実証を行った三木市役所へ報告する結果。
(市民向け方向には掲載していない情報)

結果② 運動量管理から、運動促進へ

● 本実証実施による、高齢者の運動促進効果について

本実証では、実証開始とした11/1より10日前に 高齢者にシューズを配布した。その中で5名の高齢者の方は、シューズ配布翌日からウォーキングを開始されていることが分かった。

11/1以前の10日間を「実証直前」と定義し、実証開始後9週間（3週間毎）の計測データを用いて、実証の運動促進効果を「10日換算」で比較した。



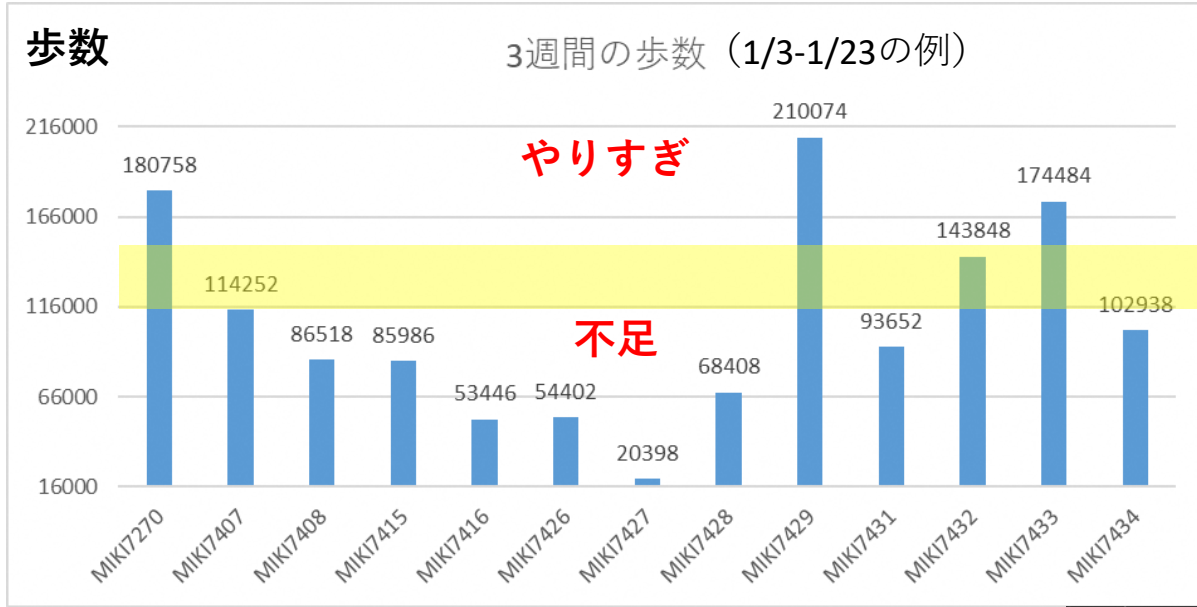
5名中4名が実証を開始してからの歩数は増加傾向にある。

1名、実証直前に多くの歩数が確認されたにも関わらず、実証開始から歩数が減少傾向の人が確認された。

例えば、実証開始してから、体調不良や歩行に影響のある故障が発生した可能性も考えられる。

● 年齢別 運動実施者に対する対応

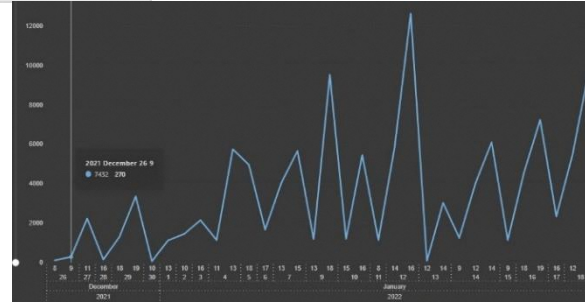
【高齢者の場合】



3週間で2万歩（一日平均1000歩以上）以上、ウォーキングを実施した高齢者に限り、左のグラフに実施例を示す。

3週間の歩数合計のターゲット歩数を11.5～15.5万歩とすることで「運動量の見える化（不足、やりすぎ）」が明らかになった。

時間別歩数発生を確認すれば、何時ごろ、何処でウォーキングしていたかが分かる。



【子供達の場合】

一例】ある中学生A（テニス部）の自主練把握（1/16- 2/26）

中学生Aの自主練特徴

- ・やりすぎは無い（コロナの影響で自主練のやりすぎが問題視）
- ・主に火・木の16:10頃、緑が丘自治会館（受信位置）で自主練実施
- ・気温による練習量制御は無い＝「暑いとき水分補給を」の指導
- ・部活後は17:30頃 自主練実施（防犯上大丈夫か？）

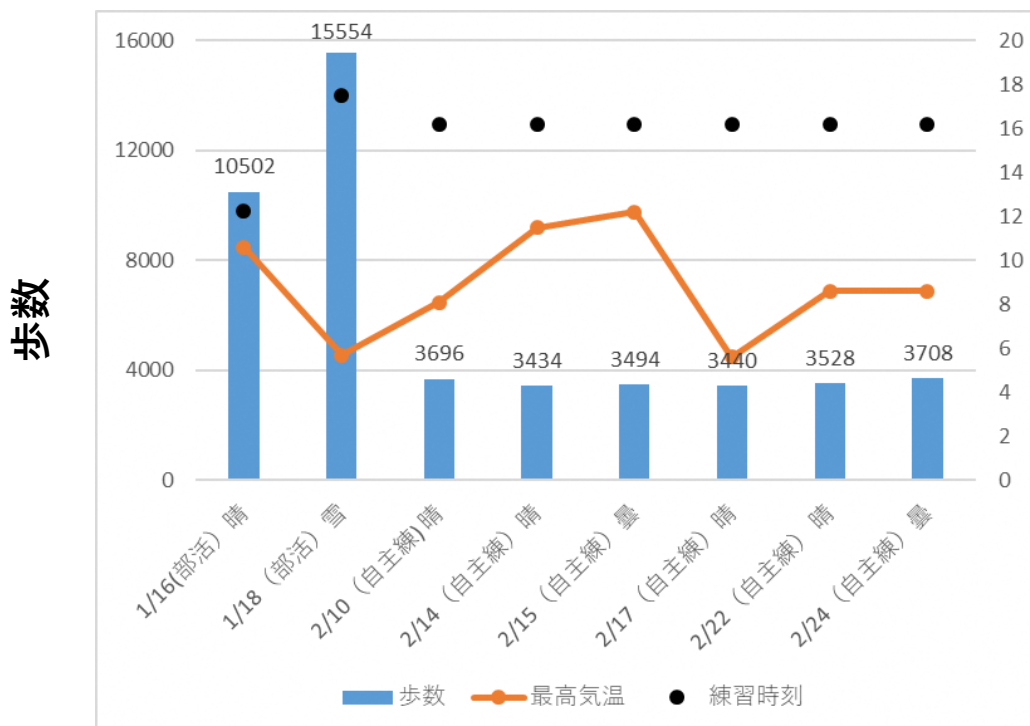
2022/1



2022/2



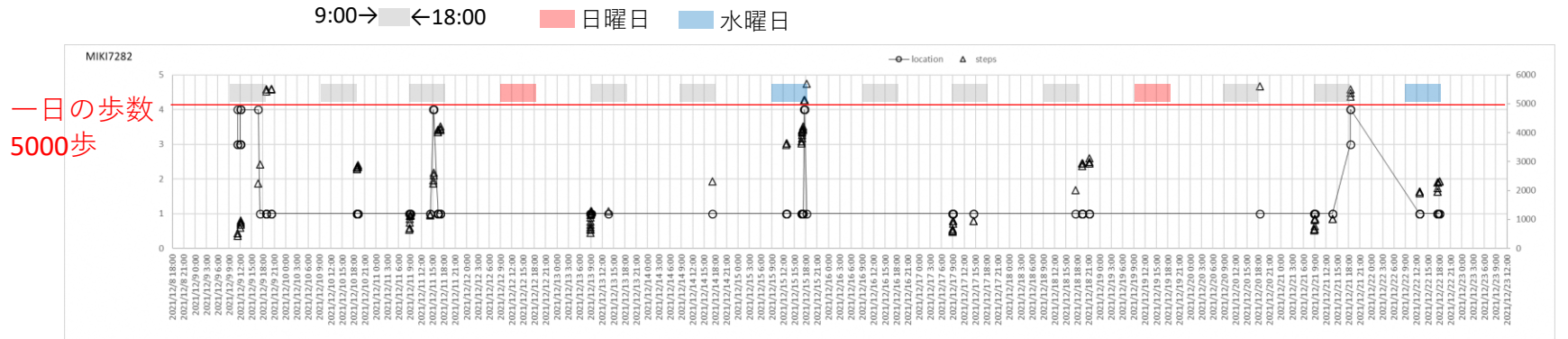
○ 部活練習 ○ 自主練
 → まん延防止期間



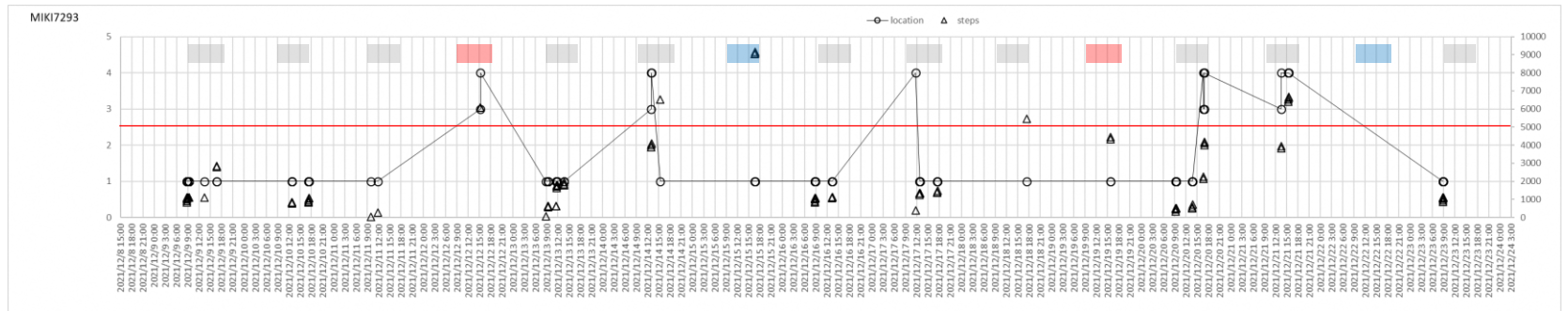
最高気温/練習時刻

【得られた知見A】 個人（個人情報無し）の行動把握

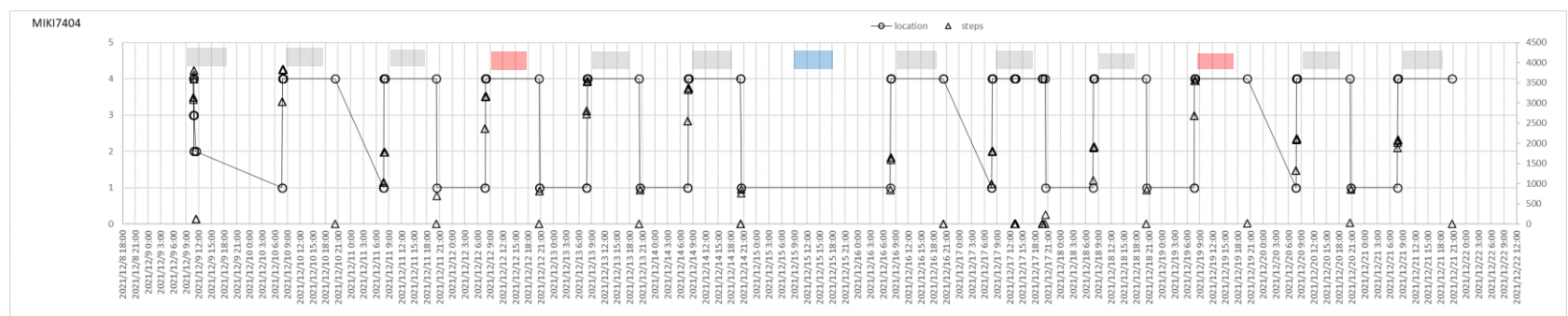
（一例として 高齢者数名の 12 / 9 ~ 2週間分のデータを示す）



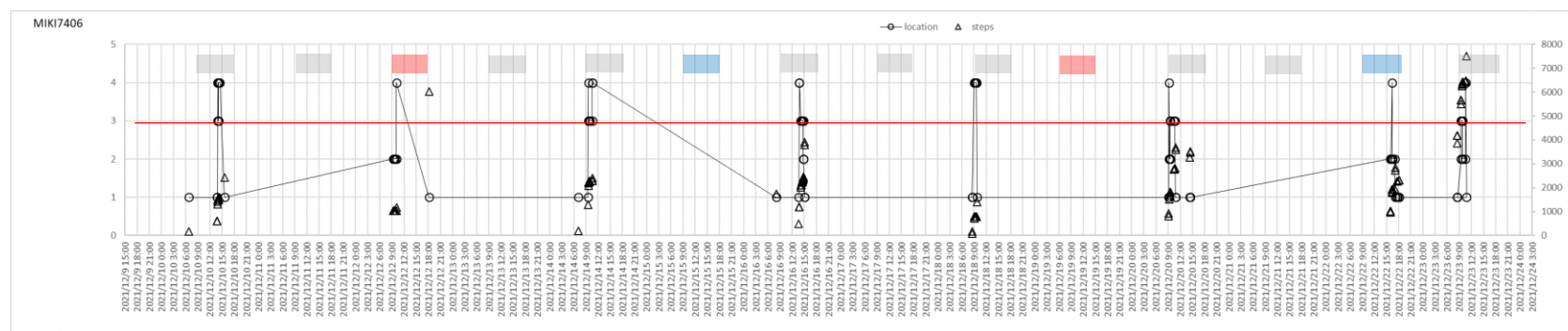
MIKI7292さん：①④付近を通るのが概ね17:00-18:00（曜日に法則は無い）。日曜日のログは無い。適度な運動を実施。



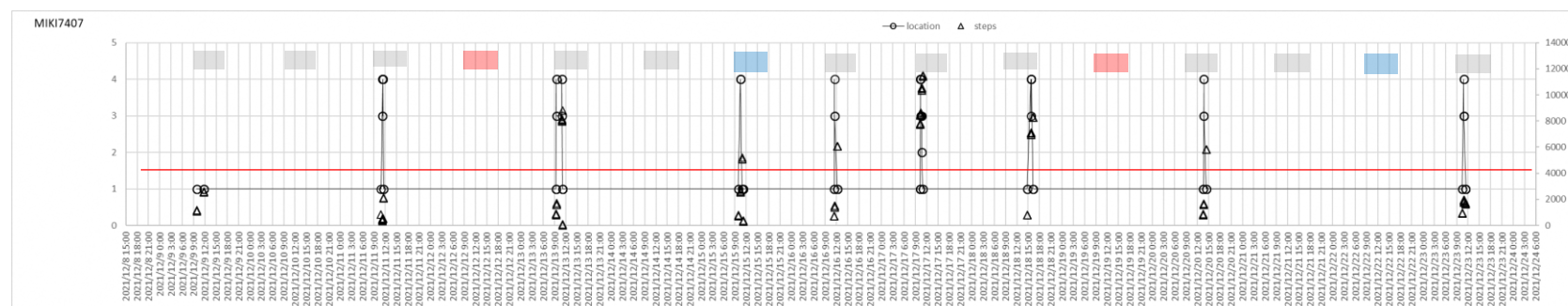
MIKI7293さん：③④付近を通るのが概ね12:00-13:00（曜日に法則は無い）。18:00頃頻りに①にログあり。やや高負荷の運動を実施。



MIKI7404さん：運動不足。生活は規則的（8:00過ぎに①④で検知/20:30に④で検知＝恐らくは出勤。ほぼ残業は無く、水曜日が休暇）⇒この規則性が崩れた時「何かあった」の信号となる。独居老人なら見守りに。



MIKI7406さん：天候によるが、「2日に1日」のペースでウォーキングされている。実施時刻は午前中とは決められているが9:00頃か12:00前とされているらしい。12:00前だと複数のログが検知されている（通過ではなく、滞在。恐らく誰かと会っている？歩数もその日は伸びない）狙った運動量を実施するなら9:00頃ウォーキングする事が望ましい。⇒この規則性が崩れた時「何かあった」の信号となる。



MIKI7406さん：日曜日のログは無いが、頻繁にこのエリアに来られている。時刻は決まっていないが、1時間以内に①→④→①と移動し、その間歩数も増えることから、ウォーキングに集中していると考え。歩数を見る限り、高負荷な運動をされている。熱中症リスクなど説明するべき。（特にウォーキング時刻を決めておられないようで、15時でも歩いている）

頻繁にウォーキングを実施していた人が、ウォーキングを休みだしたら、健康状態を声掛けすべき。

【得られた知見A】によって、以下のサービスが実施可能と言える。

➤ 運動実施状況の把握

- ・ 運動不足の方へ「不足分の見える化」
- ・ 高負荷運動実施の方へ
「無理は禁物」「熱中症警告」「（実施時刻次第では）防犯指導」

➤ 行動パターン分析

- ・ 運動量が日々減少／外出リズム（パターン）の崩れ＝不調のサインとする
- ・ 独居老人の見守り

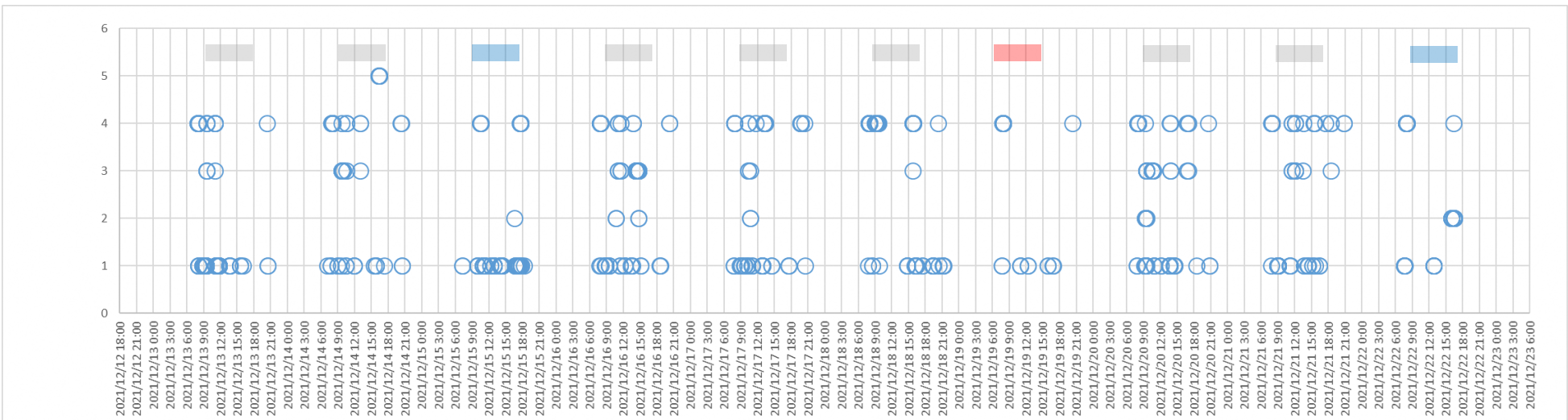
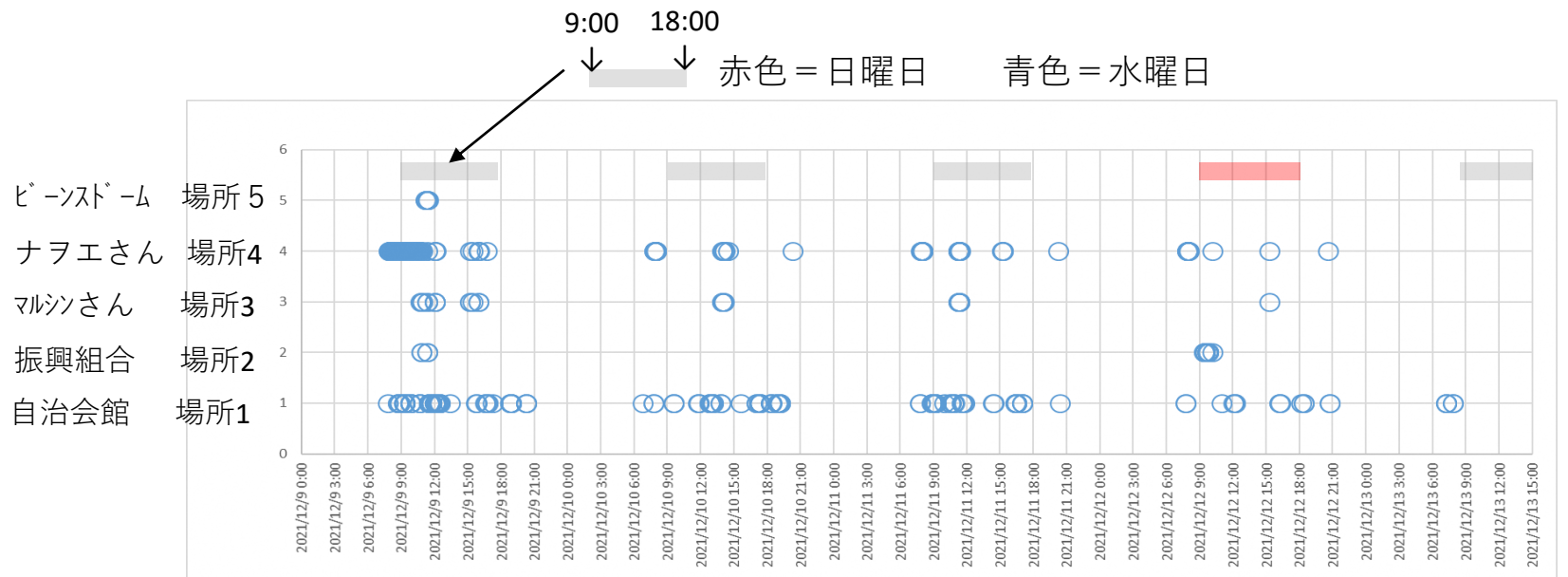
➤ 高齢者の運動関心見える化

今後、高齢化にも地域の暮らしを支えてもらわねばならない。
(防犯パトロールや子育て支援)

⇒運動能力を自治体で把握しておくことで、適正な人員配置が可能になる。



結果③ 人流データを交通事故抑制に活用【得られた知見B】



- A) 平日の午前中、中でも9時前～10時前に対象エリアへ外出している。主に①と④に多くログが確認された。
- B) 平日の17:00-19:00に①で多くのログが確認された。但し、月曜日はその傾向が薄い（推測：これは運動促進ではなく、商店街に買い物に向かうログかも知れない。日曜日にまとめ買いし、月曜日は買い出しに行かないのかも）
- C) 日曜日はログ数が他の曜日より少ない。また、時間帯による傾向も見られない。



①周辺は「柵の無い歩道」「比較的スピードが乗る交差点」「駅に向かってやや視界が不良」となっており、平日の9時～10時及び17:00-19:00は高齢者交通事故注意時間帯と言える。
 ※特に実証時期は冬だったので17:00はほぼ日が暮れていた。
 ※交通事故に縁の少ない②を選んで歩くと言う様子は無い。

歩数を見る限り、午前中の外出目的が運動促進（ウォーキング）である高齢者が多い。真夏でもこの時刻でウォーキングする場合、熱中症リスクがあるため、朝でも無理なウォーキングを避ける事、適度な水分補給をする事などを市民に伝えるべきと考える。

歩数≠外で出歩いている「移動量」と言えるので、このデータは言わば「外出移動量」を表していると言える。外出人数が多くても、移動しなければ事故に遭うリスクは低いと言える。「外出+移動」が事故との関係が深いと考えられ、「外出移動量」で議論すべきと考える。



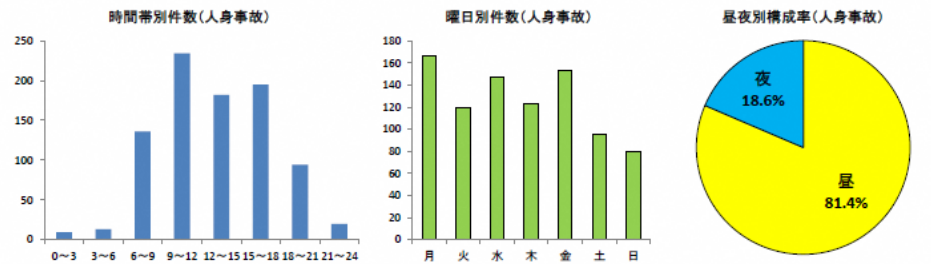
緑が丘地区 実験レポート (期間抜粋)

【得られた知見B】に合致するような交通事故の現状を持つ自治体のデータを示す。(三重県の事例)

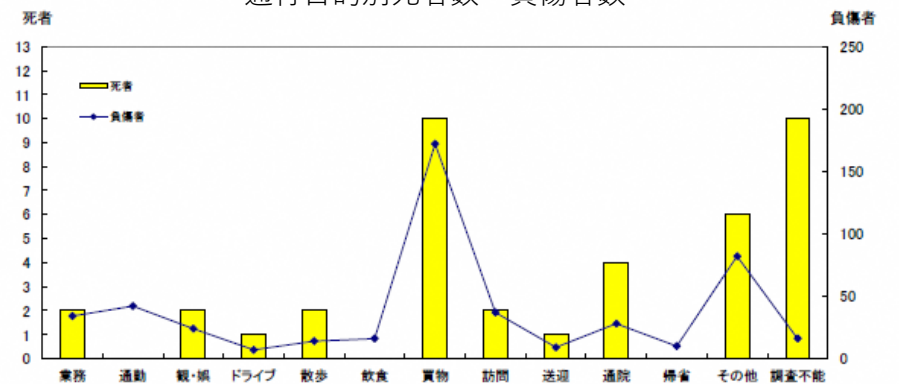
時間		合計			0~3時		3~6時		6~9時		9~12時		12~15時		15~18時		18~21時		21~24時	
		件数等	増減数	構成率	件数	増減数	件数	増減数	件数	増減数	件数	増減数	件数	増減数	件数	増減数	件数	増減数	件数	増減数
昼	件数	719	-83	81.4	0	0	3	1	131	-5	234	-33	182	-10	159	-37	10	1	0	0
	死者	23	7	57.5	0	0	0	0	3	0	9	7	8	4	3	-4	0	0	0	0
	傷者	403	-67	82.1	0	0	3	2	63	-7	137	-32	94	-20	97	-13	9	3	0	0
夜	件数	164	-21	18.6	9	-2	10	-5	5	-2	0	0	0	0	36	-13	84	-1	20	2
	死者	17	-6	42.5	1	-1	2	-3	0	-1	0	0	0	2	0	11	0	1	-1	
	傷者	88	-16	17.9	7	2	5	-4	3	-3	0	0	0	14	-15	43	-1	16	5	

※「昼」とは、日の出から日没までを、「夜」とは、日没から日の出までをいう。

【得られた知見B】が全国的に同じ傾向と言う意味では無く、TUNEGRIDを活用して、「外出移動量の多い場所及び時間帯」と事故数の関係を見出し、交通事故リスク場所及び時間帯に何らかの事故防止策を講じるべきと考える。



通行目的別死者数・負傷者数



令和3年12月末 高齢者事故の概要 (三重県警察本部)

死亡事故の被害者となる年齢層は、言うまでも無く高齢者の率が高い。高齢化が進む三木市にとっては重大な問題と言える。

加害対象は自動車とは限らない、年々自転車が増加しており、2当事者（被害者）は高齢者が最も多い。時間帯も【得られた知見B】に合致している事からも、自動車事故発生箇所＝事故多発地帯と言い切るのは不自然で、寧ろ高齢者の「外出移動量」が多い場所ほど、事故に備えるべき場所と定義できるのでは無いか と考える。

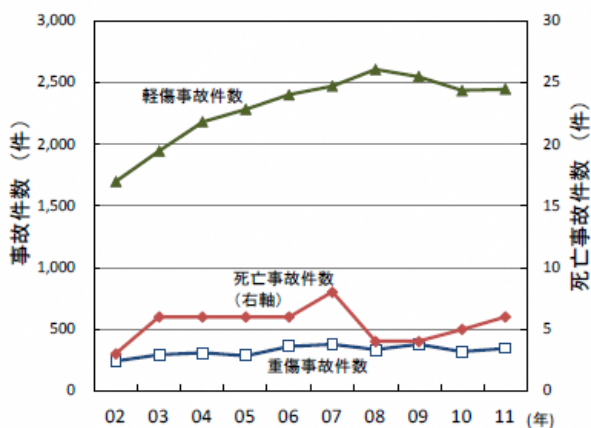
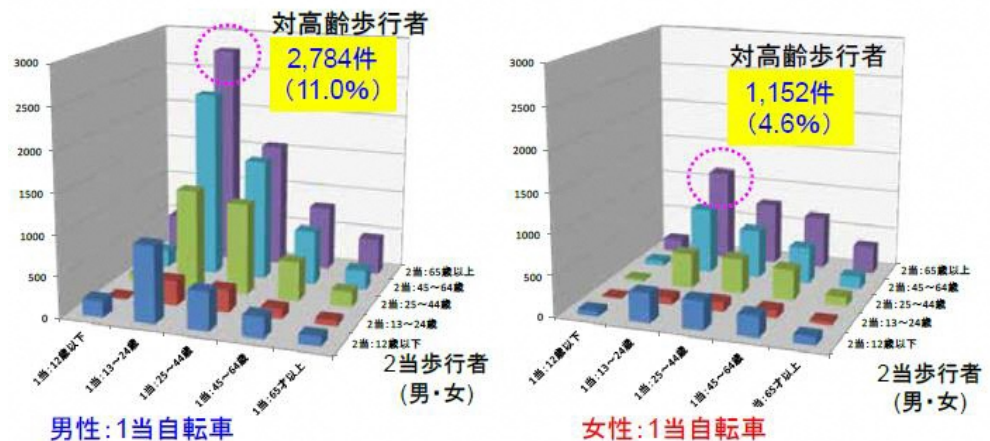


図3 自転車と歩行者の事故件数の推移



(a) 1当男性自転車

(b) 1当女性自転車

図9 男女別年齢層別死傷事故件数 2002年～2011年の合計

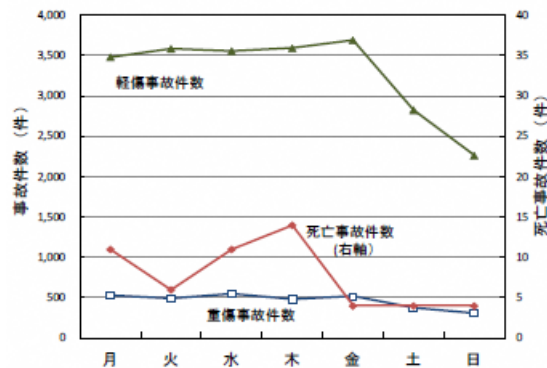


図11 曜日別死傷事故件数
2002年～2011年の合計

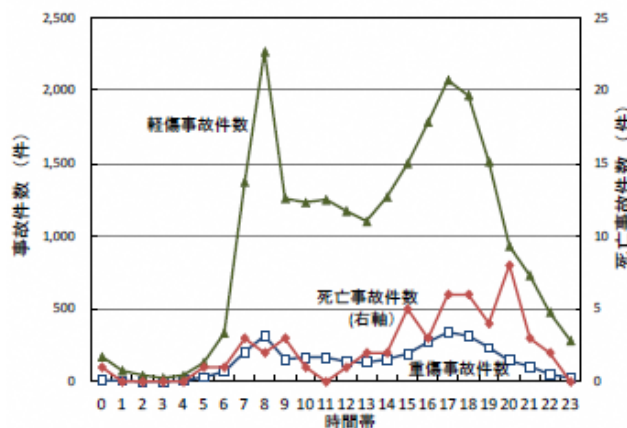


図12 時間帯別死傷事故件数
2002年～2011年の合計

自転車と歩行者の交通事故の実態 (ITARDA第15回研究発表資料)

【①これまで】

事故発生箇所の統計による、交通事故リスク場所のみの特定

- ・ n数が少なく、特定精度 低い
- ・ 時間帯まで特定はできない。

【②TUNEGRIDを用いた事故リスク場所及び時間帯の特定】

- ・ 2当事者（被害者）になる対象者の人流から事故リスク場所及び時間帯を特定する
- ・ 1当事者（加害者）が自動車／自転車などで切り分けずに特定できる。

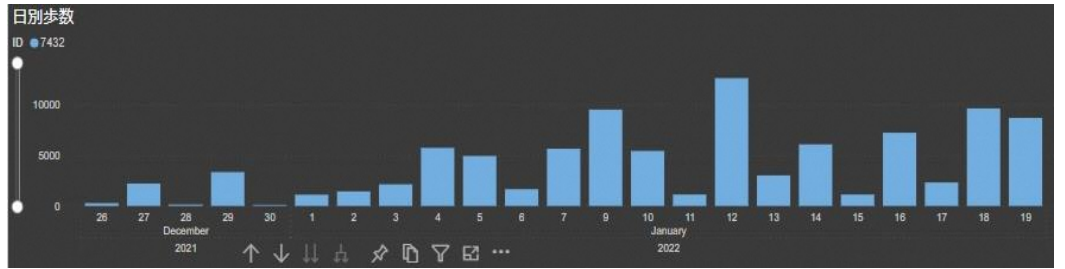
①と②の間で、特定精度は取り立てる程の差は無いと考える。それならば、

1当事者（被害者・車・自転車）のみならず、2当事者（被害者）にも、行動の改善を訴えやすい②のほうが、交通事故抑制に繋がると考える。

今回得られた成果をUPDATEし、より地域を暮らしやすくする

ための新たな活動①

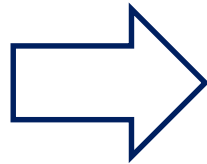
ある個人の一日の運動量測定例



本実証では、個人情報をおアックスで収集していないので、このページはあくまで「イメージ」になるが、例えば運動のモチベーションが高い高齢者がA地区に多く、運動のモチベーションが低い高齢者がB地区に多い（よってB地区の医療費が高い）となった場合、B地区の運動に対するモチベーションが低い原因を明らかにし、対策すれば、それらは改善するかも知れないし、それによる医療費削減も期待できるのでは無いか、と考える。



例えばこんなことが起きていないか？



今回得られた成果をUPDATEし、より地域を暮らしやすくする

ための新たな活動②

より多くの受信機を市内に設置できれば、A) -C) が実現できると言える。

A) 視覚障がい者へのサポート

駅にて) 緑が丘駅に視覚障がい者が降りた事が駅員に通知される。
= 駅員がプラットフォーム転落事故防止行動をとれる



市街にて) 自治体が視覚障がい者通行を想定して点字ブロックを貼った
通路の活用状況。



※想定外のルートで視覚障がい者が利用しているなら、何か
想定ルートに不都合があると考えられる。

同様の施策は車椅子利用者にも当て嵌まる事と言える。

B) より直接的且つタイムリーな交通事故抑制施策の実施

事故発生箇所に受信機に直接連動して、歩行者が事故発生箇所に近づいて
いる事に対するアラート（音／パトライト 等）が発せられるシステムを
実装する。（これまで、車が出庫する事に対するパトライト点灯などは
あったが、子供はパトライトがアラートだと知らない場合がある。）

C) 避難所体制の見直し

現在の避難所は、住民票に基づいて備蓄品（食料、衣類、毛布等）が
揃えられているが、生活時間によって人流は大きく変化する。例えば
大学付近には住民票には反映されない多くの若者が居て、人数は季節や
曜日毎に特徴がある。或いは災害が発生した際、避難所毎に避難者の
人数、属性（子供、高齢者等）
が明らかになるので、避難所間
で備蓄品の補充なども行える。
TUNEGRIDでそれら人流を把握し、
避難所運営の適切化が可能になる
と考える。

